

平成 29 年度 第五回 日高市公共施設再編・最適化の検討 に関するワークショップを開催しました。

- 開催日時 平成 29 年 12 月 6 日（水） 19:00～21:00
- 参加者 19 名
- 会場 生涯学習センター 2階 研修室



🌞 今回のテーマ

ワークショップ成果をまとめよう

今回で最終回となる本ワークショップでは、19名の市民の方々にご参加いただき、これまでの検討内容を振り返るとともに、地域別のグループにて、ワークショップ成果の仕上げを行いました。前回のワークショップでは、3地域それぞれの視点から公共施設の再編・最適化に関するご意見をいただき、今回はこれらの意見を取りまとめた成果案ポスターの確認および意見出しを行いました。地域での暮らしにもとづき、3地域の特色がよくみえる成果ポスターが完成しました。

本ワークショップでは来年1月16日（火）に市長への報告会を予定しており、報告会を意識して、作業と発表を進めました。高麗、高麗川、高萩の3地域について、住民が考える地域の特色や、大切にしたいこと、一番伝えたいこと等を整理しました。



会場の様子



最後はみんなで記念撮影

～高麗地域の視点から～

Re-Innovation

～みんなでつくろうよ 未来にひらかれた里とまち～

■地域について

- ・自然との関わり、人との関わりが強く、里のくらしが残っている。
- ・誰もが交流できるコミュニティーがある地域

■大切にしたいこと

- ・既存の施設を活用—Re Innovation—し、現在のニーズに対応した施設へ。
- ・「俺たちのまち、俺たちで」住民に関わり、動いて、盛り上げていきたい。



いい里でいいまちなんだから、いろんな活動があるし、やりたい人がいっぱいいる。だったらそれを実行しやすい場と仕組みをきちんとつくって、観光も含めた大きな交流の場として、みんなでもっと良い場にしたい。縄文時代からの歴史あるこの地域で、これまでいくつもの変遷を経てきたが、リ・イノベーションということで、21世紀にさらに良くしていこうということで考えました。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆施設数が減っても、子供たちの可能性・選択肢を奪わないこと

地区内で小中一貫校に統合する場合は、学区をオープンにして、子供たちに選択肢があるようにしてあげたい。小中一貫や中学校の統合により、生徒一人一人のケアや、後回しにされてしまいがちな専門科目等の質が上がるのであれば、推進すべきである。子供たちの可能性を奪ってしまうような公共サービスであってはならない。

◆プールは市に一つ、子どもも大人も使えるよいものを

学校プールは夏しか利用ができず、市民プールは利用者が減少している。

小中学校のプールを廃止し、市民プールを一年中使える屋内温水プールにリニューアルすることで、市内12箇所の学校プールの維持管理費を削減することが可能である。小中学生は一年を通してローテーションでプール授業を行い、また大人も利用可能な快適で便利なプールが市内に一つあればよいのではないかな。

◆「見たら帰る」で終わらない観光に 今ある資源を活用して発展

高麗地域は観光資源が豊富でありながら、「体験」の場、「交流」の場が乏しい。宿泊施設も少ないため、既存の箱モノや空家、空施設を活用して、拠点を作っていきたい。そのための仕組みづくりも必要である。住民も観光客も、いっしょに地域をつくっていけるような観光地にしたいという思いがある。

～高麗川(1)地域の視点から～

行き交う人の玄関口 ～日高市民のコミュニティの中心～

■地域について

- ・施設数が多く便利な地域、やはり高麗川駅が街の玄関！

■大切にしたいこと

- ・高麗川の施設を、高麗地域や高萩地域の人たちもアクセスできること
- ・地域をつなぐ体制(コミュニティバス等)



高麗川駅というところは、川越線、八高線の起点であり、大学や高校などのバスも駅前から出ているので、自称だが高麗川は玄関口であると考えている。いろんな地域から人が一番集まってくる、そういう意味でまずは公共交通のアクセスを何とかするべきである。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆移動手段を確保し、誰もがアクセスできる公共施設へ

市に一つしかないサービスに関しては、コミュニティバスの活用など、市民の移動手段の確保や、高齢者など人の移動も含めて考慮した施策が重要である。施設へのアクセス手段は、施設の再編や最適化と切り離せない重要な視点である。

◆民間と連携し、より便利で使いやすい施設運営を

子育て支援施設は、民間と連携した運営にすることで、より便利なサービスを受けることができるのではないかと考える。施設によっては官民連携の意見が大きく分かれるため、施設ごと、機能ごとにさらに検討を重ねる必要がある。突然の廃止や不祥事防止等を考慮して、【補助金】⇄【監査】の関係を築いて、行政の監視が入る形が良いのではないかと考える。

◆「見たら帰る」では終わらない観光に 今ある資源を活用して発展

小中学校をどうするかという議論もあったが、昔から50年、60年と住んでいる方と5、10年住んでいる新住民との間で考えの違いがあった。町に住んでいる年数によって考え方が違ってくるという点から、地区別・居住年数別等詳細に意見を集める必要があると考える。

～高麗川(2)地域の視点から～

子どもからお年寄りまで住みよいまちづくり ～「運営の工夫」「情報・交通アクセス」「周辺環境の向上」を強化する！～

■地域について

・施設数が多く、便利な地域である。

■大切にしたいこと

- ・良いものはたくさんあるけれど・・・集まっているのにもったいない！もっと施設を活かしたい！
- ・みんなが幸せになれるまち。
子供や若者が増えて、「日高市はいいところだよ～」と発信できる街にしたい！



高麗川地域には、ひだかアリーナや高麗の郷など、沢山の施設が集まっています。せっかくあるのに、地区外、地域外の方はアクセスする足がない。コミュニティバスで、3つの地域をあちこち回って、市民みんなが使いやすい施設になってほしい。また、そういったサービスを行ったとしても、情報を知らない人が多いので、情報のアクセス方法等、広報を工夫すれば、みんなが住みやすいまちになると思います。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆公民館等の各地区にある施設を活用し、様々な機能を集約

自分の地区に必要な施設については、大きな施設の中に様々な機能が集約されているとよい。教育施設や子育て支援施設は小中学校に集約し、隣接して公民館・出張所があれば、手続き等も簡易的に済んでよい。各地区にそのような拠点があると便利だと考える。

◆だれでも施設、機能にアクセスできること

公共施設を巡回する交通手段があれば、施設同士が離れていても利用は可能である。民間と連携したコミュニティバスの運行も考えられるのではないかな。

◆機能集約により、容易な情報アクセスを可能にし、人が集まる場に

保育所や児童室等の機能を集約するとともに、ほかの機能もセットで考えて、情報をしっかりと伝えていくことで、さらに便利で人が集まる場となるのではないかな。また、児童福祉施設だけでなく、高齢者向け施設とつなげていくことでコミュニティの場となる。既に市内ではお年寄りだけでなく、子供たちや障がい者が集う施設としての新たな取り組みが進められている。地域住民の良いコミュニティー空間であるが、今後は離れた地域のかたにも使ってもらえるように、情報発信を強化するべきである。

～高萩地域の視点から～

つなげる機能・仕組みを公共施設につくり、 人があたたかい日高市を育み続ける

■地域について

- ・公共施設も公共交通手段も少ない地域である。
- ・そのため、公共施設は隣接市の施設を利用することもある。

■大切にしたいこと

- ・「つなげる機能を公共施設に」というのが一番大切であり、集まる習慣、そこに行けば安心であるという場所づくりを諦めないで続けることが大事
- ・徒歩圏内に、みんなが集まれて、いきいきと暮らせる交流拠点が必要。



地域内でみんなが集まれて、いきいきと暮らせる場所があるということはとても大事。施設が無い高萩地域では、公会堂に期待するところが大きいです。前は、地区にある公会堂を活性化して、そこで交流ができるようにしたいという話をしましたが、今日は具体的にどんな利用をしくて、どんな場所になってほしいかについて、考えました。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆子どもやお年寄りでも利用できる、徒歩圏内に拠点があること

高萩地域は公共施設の数が少ない地域であり、これからも増やしていくのは難しいと考えている。公共施設の再編・最適化を進めていく中で、地域内にある公民館や公会堂に窓口機能が追加されたり、享受できるサービスが増えれば便利になる。子どもやお年寄りのかたなど、車によるアクセスができない人でも徒歩圏内でサービスを受けられることが重要であり、そのために公民館や公会堂の多目的利用の可能性が広がればよい。施設を増やさずに、既存のものを工夫して使っていきたい。

◆既存施設を柔軟に使えるような仕組みの検討

現状の公会堂ではいろいろな難点があり、量があつて床がないと高齢者だと利用しづらいという点や、閉まりっぱなしで使い方がわからない、いつも人がいない等の問題がある。防災的な観点からも、身近な所に集まれる場所があり、みんながそこに行けば安心、という拠点がほしい。使いやすい仕組みと、そこへ集まるという習慣を作らないといけない。

◆「そこに行けば安心」という場所づくりをあきらめないで続けること

なにかをやりたい人がいて、それを実現できる仕組みがあつたら、今度はそれを継続して、定期的に人が集まる場所にしていかなければならない。ちいさなイベントでもあきらめずに継続すれば、そのための段取りの集まりが定期的にあつたり、イベントの日にはコミュニティができる。施設管理の人とは別に、こういった会をまわしていく地元のコーディネーターさんがいることが大事。それもただボランティアでは続かないというところに、新しい建物を建てない分、人にお金をかけることができるのではないかな。大きい施設の活用はもちろんだが、地元にある小さな施設から人がつなげる仕組みというのをしっかり作って、人があたたかい日高市になればいい。